

習い事のすゝめ



新年度が始まりました。お子さんが幼稚園を卒園、または小学校を卒業されて、今までより時間ができたという方もいらっしゃるでしょう。転勤されてきた方もいらっしゃるでしょう。私はこれまで二十回以上の転居をしてきましたが、新天地での生活をより楽しくするには、「習い事」がおすすすめ。そのうちにママ友や勤め先の同僚といった友人ができると思いますが、子供や仕事と関係ない友人は、時に救いになります。

私がブラジルに引っ越したのは三十六歳の時でした。そこではブラジル独特の極太毛糸の刺繍「タペサリア」を習いました。私の母親くらしい世代の生徒さんが中心で、私のつたないポルトガル語をゆったりと待ってくれる、私に分かるまで何度でもゆっくり話してくれる、会うたびに抱きしめてくれる環境に癒されていました。子供の学校で知り合うお母さんたちも、食事などに誘ってくれる優しい人

だましてくるようにも感じられ…。

石の買い方には作法があり、なかなか素人が適正価格で買える空気ではありません。タイにある市場ですが、宝石を売っているのはインド人系が多くて、次いで中東系、アフリカ系、西洋系、そしてタイ人。語学力に自信もなし。それでもそのうちにやさし気な宝石商と少し話せるようになり、質問もできるようになってきて、そういう顔見知りの宝石商が少しずつ増えていきました。

実は私は小心者の人見知りなのですよ。宝石鑑別講座で知り合った日本人の友人と一緒に宝石市場に通ったことで、勇気ができました。

友人たちが興味のある石というのは、自分と同じとは限りません。その石探しに付き合うこともありませんでした。そうすると、また新たな知識と宝石商の知り合いが増えていきました。自分一人よりもよっぽど勉強になりました。気付けばすっかりハ

ちででしたが、早口で盛り上がる中、なかなかポルトガル語で口を挟むことはできませんでしたからね。

タイに引っ越したのは四十三歳の時です。タイでは宝石鑑別を学びました。バンコクは世界的な宝石の集散地で、世界中のバイヤーが宝石の仕入れに来る地です。それまで特にジュエリーや宝石が大好き、というわけでもなかったのですが、ここでしか習得できない、地の利を生かしたことを学んでみたかったです。

ふたを開けてみれば、授業は進度がとつともなく速くて難しくて。習い事の域を超えたハードさでした。復習のために一日何時間も机に向かい、ノートをまとめていましたが、「久しぶりにこんなに勉強している」という実感は楽しいものでした。

宝石市場にも週に何度も通いました。通い始めて一年くらいはただただ歩き回って、眺めているような状態。石の相場も分からず、宝石商たちはマっていた石沼。ここまでハマったのも宝石鑑別講座の友人たちがいたからだと思います。今では宝石とオーダージュエリーでビジネスも始めました。何気なく挑戦してみたことで、世界はどんどん広がるものです。

まれに、自分の人生を子供に乗っけちゃってるお母さんに出会います。とても一生懸命子育てされて、お子さんに期待されているのだと思います。ですが、あなた自身の人生はどうしていきたいのかな？と心の中で思います。我が家の末っ子は、この春、小学校を卒業しました。私は自身自身の人生をまた一段階楽しみますよ。



文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。『ブラジルの
手しごと』著。
ジュエリーと世界の
手仕事ワーク
ショップの店「メルカ
ジニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。「ゆ
らゆらゆれる北欧風
手作りモビール」
(ネコ・パブリッシング)を
監修。